

青葉通信

第8号

発行
社会福祉法人
中日新聞社会事業団
中日青葉学園

創立50周年を祝う

昭和三十五年 虚弱児施設でスタート

社会福祉法人中日新聞社会事業団中日青葉学園は今年四月、創立五十周年を迎え、記念誌発行、記念式典、祝う会の三つの記念事業に取り組みました。

学園は昭和三十五年、同事業団創立二十年を記念、日進市の丘陵地に土地提供を受け、虚弱児施設として開設。平成十年、児童養護施設に種別変更、同十五年、建て替えを機に児童養護施設あおば館(定員七十人)情緒障害児短期治療施設わかば館(同三十五人)の複合施設となりました。

青葉分校で 療育と教育を一体

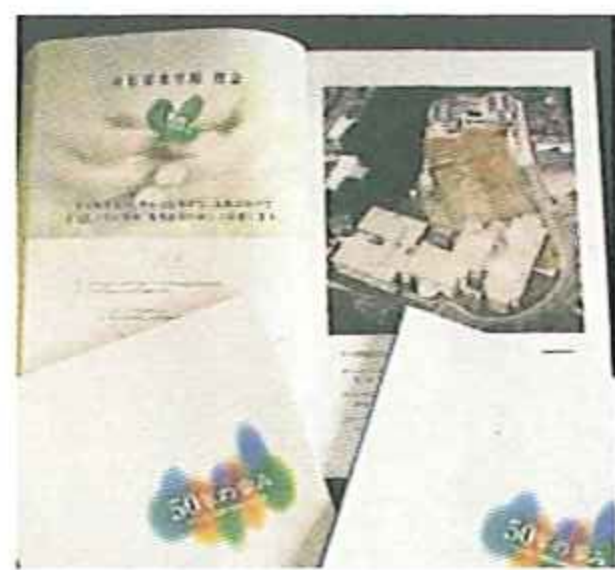
開設当時から敷地内に学習棟を設け、北小学校・日進中学校青葉分校として地元教育委員会に運営を委託、療育と教育を一体的に行う

全国でも数少ない児童福祉施設として歩んできました。

卒園生 千百五十五人

当初の入所児童は、多くが不登校でしたが、近年、保護者からの適切な関わりが増え、五十人の職員が連携を取り合って子どもたちのケアに当たっています。この五十年間に学園を卒園した児童は千百五十五人を数えます。

五十年の重み 記念誌



記念誌はA四判百七十六

ページ、内容は「発刊に寄せて」「学園の歴史」「学園の援助指導」「関係機関との連携」。自身が学園で育ち、卒園後、学園を職場とし学園の歴史とともにある近藤日出夫指導療育部長を編集長にあおば・わかば両館職員八人が企画、編集に当たり、現職・OB職員、卒園生・その保護者、ボランティアなど多くの関係者が執筆しました。

巣立ちの会

心はいつも学園に

二十一年度巣立ちの会を三月二十日、学園多目的ホールで開きました。一昨までは中学三年生を対象に卒業式の

日にあわせて行ってきたのを、昨年からは春に退園する児童を対象とするように変え、今年はずでに退園した人も参加、大野香代子中央児童・障害者相談センター長はじめ児童福祉司、青葉分校教諭、保護者、職員、在園生ら約百五十人が出席しました。



今年の対象者は高校を卒業して就職するあおば館男子二人、わかば館女子一人、中学を卒業して高校に家庭から通うあおば館女子一人、わかば館女子四人、高校を中退して働



ているあおば館男子三人、家庭復帰するあおば館小学生・幼児兄妹二人の計十三人。このうち自動車学校合宿中の高校生らを除く九人が参加しました。



会では、学園長が一人ひとりに「送る言葉」を述べ、「学園での思い出を胸にこれから頑張つて」と励ました。対象児童が一人ずつスクリーンに映し出された写真をバックに思い出と抱負を話し、在園生が送別の言葉を贈りました。

中日新聞社会事業団小川信俊事務局長が記念品とし

て中学卒業生にドライヤー、高校卒業生男子にシェーバー、女子に壁掛け時計を、学園長が学園と児童を結ぶシンボルとして学園航空写真、電話番号をプリントしたテレホンカードを手渡しました。

日本フラワードesigner協会愛知県支部(大脇典子支部長)のみなさんが愛知県花き温室園芸組合連合会から提供された花々を使ってこしらえた卒園生の胸のコサージュと会場に配置されたフラワーアレンジが会に華を添えました。

会のあと、関係者は軽食を取りながらそれぞれの思い出や夢を語り合っていました。

中日青葉学園 理念 「和」

人の輪を広げ、豊かな心を育て、未来に向けて子どもと共に歩み、地域福祉の向上に貢献します。

方針

- 1 家庭的なホーム生活を通じ、子どもたちの情緒の安定を図り、安全で安心できる生活を提供します。
- 2 スポーツ・文化活動を通じ、仲間との連帯感、心身の健康、豊かな心、忍耐力を育みます。
- 3 児童の権利擁護に努め、子どもたちの言葉に耳を傾け、社会的な責任と自分たちの権利、義務について共に考え、自立を支援します。
- 4 地域との交流を深め、地域の子育て支援・ボランティア支援の役割を担い、地域に開かれた参加型の施設を目指します。
- 5 外部の専門機関との連携を深め、子どもたちにとって、より良い支援を行います。
- 6 「子どもの最善の利益」を念頭に、職員の教育・研修を行い、自己研鑽に努めます。

50th Anniversary

みなさんに支えられて 創立50周年 卒園生・退職職員 全員集合



▽日進市教育委員会(山田誠子教育長) 学園開設時から青葉分校を運営、児童の教育に功績▽愛知警察署(稲垣正直生活安全課長) 開



感謝状を贈ったのは次の皆さん。



り、学園や青葉分校を視察しました。

この後、会議室で茶話会に移り、日進市内の知的障害者授産施設「あゆみ」で作られたパン、コーヒーを味わいながら学園の歴史を振り返りました。

4月9日(土) 記念式典

記念式典は、四月九日、学園多目的ホールで愛知県、日進市、日進市立日進中学校、北小学校青葉分校、県内児童福祉施設、ボランティア代表などの関係者、学園職員約百人が出席して開かれました。

大島寅夫中日新聞社会事業団理事長のあいさつに続き、長く功績のあった四団体、四個人へ感謝状贈呈、野村道朗愛知県健康福祉部長、萩野幸三日進市長、浜野英夫愛知県社会福祉協議会専務理事から祝辞をいただきました。



設以来防犯、交通指導で児童の安全を守る▽尾三消防本部日進消防署(石川錬治副署長) 昭和四十七年から防災避難・救命救急訓練を指導▽岩崎固有財産管理委員会(牧伯彦委員長) 開設時に学園用地を寄贈▽加藤政和竹の子会代表



理事長を囲んで職員記念撮影

4月29日(祝・木) 祝う会



懐かしい顔ぶれに会話が弾む

出席したのは、退職職員三十二人、分校教諭(元・現)十四人、卒園生九十七人、ボランティア十九人、学園職員を加えるとおよそ二百人。



「いただきます」を発声、食事を取りながらの歓談に移りました。立食パーティ様式で

参加者は「お久しぶり。元気」などと思ひ出や現況を語り合っていました。祝う会は午後一時で中締め、そのあと、「二次会」として年代別のグループに分かれて会話を楽しみました。今回をきつかけに集まる会を続けたいとの

記念式典とは別立てで、退職職員、卒園生、青葉分校教諭、ボランティアが一堂に会し五十年を振り返ったのが「祝う会」。四月二十九日、多目的ホールを会場に盛大に催しました。



職員がお礼

声が多く、今後、検討していくこととなりました。出席者の中で最年長の卒園生・大岩弘幸さんは「立派になった学園を見てうれしく、感慨無量。これから役に立つことがあれば協力したい」、最古参の元職員・姫田昌宏さんは「近藤君が部長になつていたとは驚いた。素晴らしい会に呼んでいただきありがとうございます」と話していました。



大橋二代園長(前列中央)を囲んで

今日ここに、創立五十年を迎え、記念式典を行うことができるのは誠に喜ばしく、これもひとえに今日、お集まりいただいた皆さまをはじめ関係する多くの方々のご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。青葉学園では保護者から身体的、あるいは養育放棄などの虐待を受けたり、発達障害など何らかの障害を抱えるなど、対応が難しい子どもさんが多くいて、職員は「子どもの最善の利益」を念頭に日々、奮闘しています。

五十年という半世紀の間に学園を築立った児童は千五百十五人を数えます。第一期生の方々は還暦を過ぎていること

半年の出来事

10月	3日 小学生が北小学校運動会に参加	17日 お菓子の家・フレベールまつりに参加
11月	19日 北小学校学習発表会	25日 フットサル大会におおば館参加
12月	2日 お菓子の家・フレベールがケーキ作り	31日 青葉まつり、インフルエンザのため規模縮小して実施
1月	1日 長久手町・景行天皇社へ初詣。寄付金で全児童に特別お年玉	14日 自民党福祉対策議員連盟20人が学園視察
2月	13日 あおば館3階伊豆へ1泊2日フロア旅行	14日 日進中学校卒業式(10人)
3月	6日 わかば館送別パーティ	19日 北小学校卒業式(8人)
4月	20日 あおば館けやき白浜へ1泊2日ホーム旅行	20日 スギウラ鉄筋ゲーム機など寄贈
5月	27日 わかば館ナガシマスパランドへ	27日 劇団飛行船招待
6月	27日 あおば館しらかば白浜へ1泊2日ホーム旅行	27日 劇団飛行船招待
7月	27日 あおば館しらかば白浜へ1泊2日ホーム旅行	27日 劇団飛行船招待
8月	8日 愛知警察署から感謝状受領。県児童福祉施設長会主催「白山スキー村」に中学生参加(10日まで)	27日 劇団飛行船招待
9月	8日 愛知警察署から感謝状受領。県児童福祉施設長会主催「白山スキー村」に中学生参加(10日まで)	27日 劇団飛行船招待
10月	3日 小学生が北小学校運動会に参加	27日 劇団飛行船招待
11月	19日 北小学校学習発表会	27日 劇団飛行船招待
12月	2日 お菓子の家・フレベールがケーキ作り	27日 劇団飛行船招待
1月	1日 長久手町・景行天皇社へ初詣。寄付金で全児童に特別お年玉	27日 劇団飛行船招待
2月	13日 あおば館3階伊豆へ1泊2日フロア旅行	27日 劇団飛行船招待
3月	6日 わかば館送別パーティ	27日 劇団飛行船招待
4月	20日 あおば館けやき白浜へ1泊2日ホーム旅行	27日 劇団飛行船招待
5月	27日 わかば館ナガシマスパランドへ	27日 劇団飛行船招待
6月	27日 あおば館しらかば白浜へ1泊2日ホーム旅行	27日 劇団飛行船招待

安全対策

グラウンド北の遊び場に登り棒、雲梯などから転落したときに衝撃を和らげるため緩衝材を敷きました。特殊なクッションを土台とし、その上に人工芝と砂を全体に敷き詰めました。約五百万円の工費は、名古屋市の村上規博さんと匿名の方からの寄付を充てました。安心子ども基金を活用、子どもたちが屋上に上がること防ぐため、手がかからないように樋を金属で覆ったり、フェンスを手直しました。



クッションを敷いた遊び場



樋に工夫 フェンス増設

楽しく遊ぶ

子どもたちがひとりでキャッチボールをしたりサッカーの練習ができるようにグラウンドの一角に「投てき板」(幅3メートル、高さ2メートル)を、また、バスケットゴールをグラウンド北のスペースにそれぞれ新設しました。

約百五十万円の費用は江原啓之さんの寄付を充てました。



投てき板

青葉まつり

恒例の青葉まつりは、十月三十一日、新型インフルエンザが愛知県内でも大流行したのを受け、感染予防のため規模を縮小して行いました。児童、職員、ボランティアだけの参加とし、ラーメンなどの模擬店、舞台での和太鼓演奏などはいつもと同じ内容でしたが、児童からは「どうして友達を呼べないの」との声がありました。



新型インフルエンザ

昨年春以降、全国で問題となった新型インフルエンザ。学園では手洗い、うがいの励行に努めていましたが、九月、新学期が始まった直後、高校生が発症したのをはじめ今年一月に小学生一人がり患するまで五ヶ月にわたり、児童、職員合わせて百四十四人のうち五十八人が感染しました。毎日、児童の健康状態を把握、早めに通院することで重症化を防ぐことができました。



学園歌・歌詞木版

お菓子の家・フレベールさんからの寄付金で、多目的ホール正面壁面に「学園歌の歌詞表示板」を設置しました。縦百二十センチ、横二百四十センチ、ひのきの間伐材を利用した郡上森林組合特製品。これまででは巢立ちの会など必要な時にその都度、職員が大きな紙に書いたものを使っていた。

第三者評価受審

あおば館は福祉サービスとして第三者評価を初めて受審しました。その結果、「サービスの質」など八十九項目のうちAが七十四項目、Bが十三項目、Cは二項目でした。C評価は管理部門での人事考課と外部監査がない二項目。福祉サービスのあり方について見直しをする機会として捉え、今後、より良い支援につなげていきます。

トラック寄贈

名古屋トヨペットから小型トラック一台いただきました。修理が必要な自転車、青葉まつりで使うテントなどなどワゴン車では無理なもの運ぶのに役立っています。



愛知署から感謝状

「警察行政への協力団体」として学園が対象となり一月八日、東郷町・いこまい館で開かれた愛知警察署感謝状贈呈式に園長が出席、都築署長から感謝状を受け取った。

二十二年春人事

昇進 あおば館指導係長 倉橋幸彦(同主任指導員)、同館主任指導員 佐藤路子(同指導員)、わかば館主任指導員 横井直子(同指導員) 四月一日付け
採用 あおば館保育士 森晴世、印藤義子(四月一日付け)

退職

あおば館指導係長 高橋悦子、同館保育士 杉浦啓子(三月三十一日付け)

勤続表彰

四月一日、次の皆さんを永年勤続表彰しました。

「あおば館」十年 倉橋幸彦指導係長 五年 中田真実指導員
「わかば館」十五年 早崎幸代主任保育士 十年 横井直子主任指導員

二十一年度表彰

あおば館 高寄孝一指導係長、倉橋幸彦主任指導員、鶴飼直樹・水野麻里・武智絵里・川角恭代児童指導員「特別な支援を必要とする児童に対し連携して適切な指導に当たった」 高橋悦子指導係長「二十一年九月から年明けまで続いた児童の新型インフルエンザり患、治療の対応に力を尽くした」 倉橋幸彦主任指導員

ありがとうございました

学園に二十一年秋以降、次の方々から寄付や招待など応援を頂きました。学園安全対策、特別お年玉などに役立てました。
匿名(二百九十万八千八百円) 名古屋トヨペット(四百万円) リゾートトラスト(二十四万円) 荒木雅博選手後援会、中日新聞社管理局有志(二十万円) 愛知中央ライオンズクラブ、棚橋弘子、経政会(十万円) 井上一樹、波多野智啓(五万円) 横山高嶺、高橋昭彦、K、O(三万円) 戸谷紘治、川本公子、志村清一、一(一万円) 武藤綾子(五千円) 小野寺節子、白山宮、日本鏡餅組合、中部善意銀行、名古屋スポーツセンター、イトピー、中村商店、中日フォトサービス、

ジブラルタ生命、さんわコーポレーションさんわグループ、丹羽久子、愛知ミタカ運輸、名糖産業、都筑、白竜神社、栄屋印刷店、日本モーターパーク、野外民族博物館リトルワールド、三菱商事中部支社、トヨタ自動車、スターバックスコヒー日進竹の山店、水野鞆店、愛知県アマミューズメント施設、近藤産興、アド・イースト、らーめん・橋、高松園製陶所、日進市更生保護女性会、名古屋東区更生保護女性会、リゾートトラスト、全国青年司法書士協議会、ユニオンマリオンド進店、紀の国屋、日本フラーデザイン協会愛知県支部、愛知県花き温室園芸組合連合会、劇団飛行船名古屋支社、光栄

編集後記
創立五十周年に当たり、記念誌発行、式典、祝う会の三つの事業を行いました。記念誌は学園の生き字引・近藤部長、式典は園長、祝う会はイベントも得意な寺井指導係長と三人で分担、子どもたちのケアに追われながら全職員の協力で何とか終えることができました。改めて関係者の皆さんに感謝、感謝です。(M・M)



社会福祉法人中日新聞社会事業団
〒460-8511
名古屋市中区三の丸1-6-1
中日新聞社1階
電話052(221)0580
ファクス052(221)0839
中日青葉学園
〒470-0131
愛知県日進市岩崎町ノ山149-164
児童養護施設「あおば館」
電話0561(72)0134
ファクス0561(74)2315
児童心理療育施設「わかば館」
電話0561(74)7752
ファクス0561(72)7557